



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2023.3-4

No.457

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



埼玉県野鳥分布調査概要報告

—2020年～2022年—

日本野鳥の会埼玉 調査部

1.はじめに

第1回調査¹⁾と第2回調査²⁾は20年を経て、それぞれ5年間実施したが、今回は第2回調査から15年を経て、2020年5月から2年間実施した。調査の間隔を短縮したのは、環境変化などによる野鳥の生息状況の変遷をよりきめ細かに把握することを目的としたためである。

野鳥分布図を含む報告書は当会のウェブサイト³⁾で公表し、ここでは概要のみを報告する。

なお、調査期間中に新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が発せられ、県営公園の駐車場が閉鎖されるなどして、場所によっては調査に影響が出た。

表1 調査概要

調査年限	2020年5月～2022年1月	
期	夏季	5月11日～7月10日
間	冬季	12月1日～1月31日

2.調査方法

探鳥会を通じて配布した調査葉書によるアンケート、会員からのメールによる調査報告、野鳥情報、探鳥会報告、野鳥リポーターからの報告などによりデータを収集した。

それらのデータを、JIS X 0410「地域メッシュコード」(日本工業規格1976年制定、2002年改正)に基づく基準地域メッシュ単位の出現鳥として整理し、調査部が運用している野鳥データベース⁴⁾に入力・分析した。

基準地域メッシュ(「3次メッシュ」とも呼ばれる)は、緯度・経度に基づいて定められており、1区画の面積は約1平方kmである。

なお、野鳥分布図は、ウェブサイトで公表する報告書を参照したいが、面積が基準地域メッシュの25倍である5倍地域メッシュ(以下、「5倍メッシュ」という)を単位として表示した。これは、従来の調査報告と同じである。

3.調査期間の設定

夏季の調査は、本調査が繁殖調査ではない

ため渡りの鳥も含んでいるが、県内における繁殖の可能性が想定できる期間を設定した。

冬季の調査は、越冬する鳥が安定している期間を設定した。

4.調査メッシュ数と観察種数

図1に調査した5倍メッシュ(2年通算)の位置を示す。○は夏季調査を実施した5倍メッシュ、+は冬季調査を実施した5倍メッシュである。

また、表2に籠脱けなどの外来種(以下「番外種」)を含む観察種数とメッシュ数を示す。

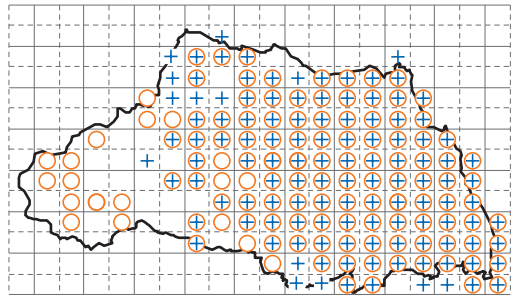


図1 調査した5倍メッシュ

表2 観察種数と調査メッシュ数

年	夏季調査			冬季調査		
	種数	基準	5倍	種数	基準	5倍
2020	108	148	57	133	345	100
2021	125	470	124	144	571	117
通算	135	523	128	151	639	122

注1) 基準=基準地域メッシュ、5倍=5倍メッシュ

注2) 夏季は4種、冬季は5種の番外種を含む

5.前回調査結果との比較

(1) 調査メッシュ数

前回調査された5倍メッシュ数は夏季調査91、冬季調査94であった。今回は夏季・冬季調査ともに前回よりも増えただけでなく、第1回調査の夏季調査120、冬季調査111をも上回った。

(2) 今回新たに記録された種

表3に過去2回の調査では夏季・冬季調査を通じて記録がなく、今回の調査で新たに記録さ

れた種を示した。種名の後の()内の数字は、その鳥が記録された5倍メッシュ数を示す。カオジロガビチョウは番外種である。

表3 今回新たに記録された種

夏季調査	冬季調査
オグロシギ(1)	シハリガモ(1)
コアオアシシギ(1)	サンカノゴイ(1)
クロハラアジサシ(2)	ヒメクイナ(1)
ハジロクロハラアジサシ(1)	コアオアシシギ(1)
ヤイロチョウ(1)	オオマシコ(1)
ショウドウツバメ(1)	コホオアカ(1)
カオジロガビチョウ(1)	シベリアジュリン(1)
-	カオジロガビチョウ(2)

(3) 前回分布図を掲載し、今回記録なしの種

8種(ウズラ、ヨタカ、キョウジョシギ、トウネン、ツバメチドリ、ウミネコ、アカショウビン、キバシリ)であった。

(4) 種ごとの分布域割合の前回との対比

前回、今回ともに記録があって対比可能な夏季調査116種、冬季調査126種について、記録された5倍メッシュ数が調査した5倍メッシュ数に占める割合(以下「分布域割合」)を求め、前回の分布域割合との比Rを算出した。

たとえばシラコバトは、前回の夏季調査では調査した91メッシュ中の19メッシュで記録されていた。これに対して今回の夏季調査では128メッシュ中の2メッシュで記録された。よって、分布域割合の比Rは前回に対して今回が0.07となり、大幅に分布域が縮小していることが分かる。

このようにして算出した分布域割合の比Rの区分ごとの種数を表4に示した。

表4 分布域割合の比Rの区分ごとの種数

分布域割合の 前回調査比R	夏季調査	冬季調査
	種数	種数
0.5以下	22	13
0.5超~0.8以下	25	21
0.8超~1.2以下	30	42
1.2超~1.5以下	22	30
1.5超	17	20
計	116	126

① 分布域割合の変化が少なかった種

前回比が0.8超~1.2以下と比較的変化が小さかった種数は、夏季調査30種、冬季調査42種で、前回と今回で対比可能な種数(夏116種、冬126種)の約26%と約33%にあたる。

② 分布域割合の減少した種

前回比が0.5超~0.8以下に減少した種数は、夏季調査25種、冬季調査21種で、前回と今回で対比可能な種数のそれぞれ約22%と約17%にあたり、冬季よりも夏季の割合がやや大きかった。

前回比が0.5以下に減少した種数は、夏季調査22種であるのに対し、冬季調査では13種で、前回と今回で対比可能な種数のそれぞれ約19%と約10%にあたり、冬季よりも夏季の割合が大きかった。

③ 分布域割合の増加した種

前回比が1.2超~1.5以下に増加した種数は、夏季調査で22種、冬季調査で30種と、前回と今回で対比可能な種数のそれぞれ約19%と24%にあたり、冬季の割合がやや大きかった。

前回比が1.5超に増加した種数は、夏季調査が17種、冬季調査が20種と、それぞれ分布図を掲載した種数の約15%と約16%にあたり、ほぼ同じ割合であった。

以上から、第2回調査時に比べ、分布域が増えたと思われるのは冬季に観察される種のほうがやや多く、分布域が減ったと思われるのは夏季に観察される種のほうが多いことが示された。これは、第2回調査時と同様の結論であり、全体として、夏季に観察される種の分布域の縮小傾向と冬季に観察される種の分布域の拡大傾向が続いていると見られる。

参考までに、夏季・冬季調査で分布域の割合が増加した上位10種を表5、減少した上位10種を表6に示した。

表5 分布域の割合が増加した上位10種

順位	種名	夏季調査	今回	前回	割合比 R ①/②
		種数	記録メッシュ 数割合 ①	記録メッシュ 数割合 ②	
1	ヒクイナ	8/128	8/128	1/91	5.69

2	ハチクマ	7/128	1/91	4.98
3	トビ	58/128	9/91	4.58
4	オオムシクイ	12/128	2/91	4.27
5	ガビチョウ	66/128	16/91	2.93
6	エナガ	38/128	11/91	2.46
7	タマシギ	3/128	1/91	2.13
8	ヤマガラ	34/128	12/91	2.01
9	ミノサザイ	11/128	4/91	1.96
10	メボソムシクイ	10/128	4/91	1.78

3	ユリカモメ	6/122	25/94	0.18
4	チュウサギ	2/122	7/94	0.22
4	ホオアカ	2/122	7/94	0.22
6	ソウシチョウ	2/122	5/94	0.31
7	タカブシギ	1/122	2/94	0.39
7	セグロカモメ	11/122	22/94	0.39
7	オオセグロカモメ	1/122	2/94	0.39
10	コハクチョウ	7/122	13/94	0.41

冬季調査		今回	前回	
順位	種名	記録メッシュ数割合 ①	記録メッシュ数割合 ②	割合比 R ①/②
1	サンショウクイ	12/122	1/94	9.25
2	イソヒヨドリ	11/122	1/94	8.48
3	クサシギ	26/122	5/94	4.01
4	カンムリカイツブリ	30/122	6/94	3.85
5	ミサゴ	14/122	3/94	3.60
6	クマタカ	4/122	1/94	3.08
7	ハマシギ	3/122	1/94	2.31
7	オジロビタキ	3/122	1/94	2.31
9	ガビチョウ	38/122	13/94	2.25
10	トビ	73/122	26/94	2.16

表6 分布域の割合が減少した上位10種

夏季調査		今回	前回	
順位	種名	記録メッシュ数割合 ①	記録メッシュ数割合 ②	割合比 R ①/②
1	シラコバト	2/128	19/91	0.07
2	コルリ	1/128	4/91	0.18
3	イソシギ	4/128	15/91	0.19
4	エゾムシクイ	2/128	7/91	0.20
5	キアシシギ	4/128	12/91	0.24
5	チュウシャクシギ	2/128	6/91	0.24
7	ムナグロ	6/128	15/91	0.28
8	カッコウ	19/128	46/91	0.29
9	ヨシゴイ	3/128	7/91	0.30
9	ササゴイ	3/128	7/91	0.30

冬季調査		今回	前回	
順位	種名	記録メッシュ数割合 ①	記録メッシュ数割合 ②	割合比 R ①/②
1	セッカ	1/122	10/94	0.08
2	シラコバト	3/122	13/94	0.18

6. 謝辞

情報を提供していただいた110名の方々に深く感謝いたします。

7. おわりに

今後とも鳥相の変化を把握するために、同様の調査が継続的に行われることを期待したい。

調査・取りまとめ経験の継承なども考慮すると、今後は調査間隔をさらに短縮し、10年程度にすることも検討の必要があるだろう。

特記事項: 本調査外の情報であるが、夏季調査期間中の2021年6月8日に飯能市でヤイロチョウが記録された³⁾。これは、1973年6月7日に秩父市で記録⁴⁾されて以来48年ぶりのことである。この情報も発見・撮影者の了解を得て本報告に加えた。

(執筆: 小林みどり、石井 智、三好正幸、金井祐二、森本國夫)

文 献

- 1) 研究部, 埼玉県野鳥分布調査報告 1985年～1990年, 『しらこぼと』増刊号 No.107, 1993
- 2) 研究部, 埼玉県野鳥分布調査 2005年～2010年, 『しらこぼと』増刊号 No.397, 2017
- 3) 野鳥記録委員会, 野鳥記録委員会の最新情報 ヤイロチョウ, 『しらこぼと』No.455, p9, 2022
- 4) 埼玉県教育委員会, 『埼玉県動物誌』, p71, 1978

3年ぶりにリーダー研修会を開催

普及部長 長野誠治

コロナ禍のため3年ぶりとなったリーダー研修会は、9月4日(日)に北本市の埼玉県自然学習センターで、また当日都合により参加できなかった1名に対して後日オンラインで開催しました。この研修会は1985年5月に初めて開催されて以来、今回で36回目になる当会にとって重要な行事のひとつです。

研修会を開催できなかったこの2年間に退任者が9名出ましたが、それを上回る13名の方が新たにリーダーに就任されました。

今回はコロナの感染防止の観点から午前中のみで開催とし、参加者も新リーダー候補者およびその推薦者である役員、代表、普及部長、IT委員会委員長に限りしました。研修は代表挨拶、自己紹介の後、リーダーとしての心構えや注意点の説明、質疑応答などを行いました。最後に代表から新リーダーの皆さんに腕章を貸与して終了しました。

新リーダーは次の13名です(敬称略)。

金井祐二(さいたま市)、櫻井奈々絵(三芳町)、瀬尾桂一(さいたま市)、関口勇三郎(深谷市)、高橋洋一(深谷市)、中橋由美子(川口市)、中村直矢(蓮田市)、中村保貴(蓮田市)、別井利次(幸手市)、細田芳夫(蓮田市)、三好正幸(さいたま市)、村越百合子(上尾市)、山本恵美子(熊谷市)

最年少は中学1年生、女性が4名、県北部や県中西部にお住まいの方も多く、非常にバランスの取れた陣容だと思えます。新リーダーが探鳥会にデビューした時は励ましのお声をかけていただければ幸いです。

(*)リーダー研究会に参加して新リーダーになっていただくためには、まずは相当数の探鳥会に参加して実際の探鳥会がどのように運営されているかを知っていただくことが前提になります。そうすることで自然にベテランリーダーとも顔見知りになり、一緒にボランティア活動をしていける仲間として、「ぜひ探鳥会のお手伝いをお願いしたい。ついてはリーダーに推薦をするから、研修会への参加をよろしく」と声がかかることになると思います。

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●ムジセッカ

英名 Dusky Warbler

学名 *Phylloscopus fuscatus*

分類 スズメ目ムシクイ科ムシクイ属



会員の鈴木功さんより、2022年11月に草加市内で撮影されたムジセッカの写真3枚が寄せられました。11月初旬より観察されていたようです(上掲写真は11月22日撮影)。

識別の難しい種ですが、写真を検討した結果、①一様に灰褐色の上面、②脇から下尾筒にかけての淡褐色の羽毛、③比較的短めな尾、④目先が白く後方がバフ色の眉斑、⑤上嘴が黒く下嘴は黄褐色の細長い嘴、⑥濃褐色の細い足、等の特徴を確認したので、当委員会はムジセッカと認定しました。鈴木さんの観察による「舌打ちをするような地鳴き」というのも重要な根拠のひとつです。

本種は2019年3月に、さいたま市岩槻区内で既に観察例のある野鳥ですので(本誌2019年6月第423号参照)、このたびの観察・撮影は埼玉県内2例目の記録となります。

本種は、シベリア南東部・中国北東部・モンゴルなどで繁殖し、中国南部・インドシナ・インド東部などで越冬します。我が国では数少ない旅鳥や冬鳥として記録がありますが、今回事例の個体がこのまま越冬するかどうか注目されます(2022年12月下旬現在、観察継続中です)。

※編集部:2023,01,29 同地のムジセッカ確認。



野鳥情報

川越市石田本郷

◇4月29日、田んぼでオグロシギ3、チュウシャクシギ1(鈴木 功)。

さいたま市浦和区 JR北浦和駅周辺

◇4月30日、イソヒヨドリの鳴き声。他の日にも聞いた(山田陸真)。

さいたま市見沼区宮ヶ谷塔(53397534)

◇4月30日、カルガモ、アオサギ、ダイサギ、ムナグロ、コチドリ、チュウシャクシギ、ヒバリ、ツバメ、カワラヒワなど(嶋田富夫)。

さいたま市緑区大崎

◇4月30日、見沼代用水沿いの斜面林でキビタキの囀り(藤原寛治)。

草加市柿木町

◇5月1日、ムナグロ77、チュウシャクシギ1、アカハラ3+、キビタキ♂1、クロジ2。5月4日、アマサギ夏羽1(下写真)、ムナグロ9。5月22日、オオタカ幼鳥1。6月25日、コアシサシ50±(抱卵姿勢の個体22)。倉庫建設中の造成地内でコロニーを確認した(53396645)。カワセミ2(53396636)。7月10日、コアシサシ成鳥25±雛8(抱卵姿勢の個体13)。7月30日、コアシサシ成鳥1。無事に繁殖が終了した様子だった。7月31日、ヒクイナ声のみ(53396645)。日没頃に数回、鳴き声を聞いた。当地では3年振りで嬉しかった(鈴木 功)。



加須市柏戸

◇5月1日、田んぼでケリ2、ムナグロ8、キアシシギ1(鈴木 功)。

さいたま市岩槻区太田1丁目

◇5月3日、畑作業をしていると梅の木の枝で

ぐずるキビタキ♂1発見。数日滞在。5月26日午後10時頃、「ホッホ、ホッホ」とアオバズクの声。探しに出たが鳴き止んでしまい不明(鈴木紀雄)。

さいたま市西区植田谷本

◇5月4日、大宮南高校近くの水の張られていない田んぼでムナグロ50+。稲わらや土くれに紛れ、動きも少なく、見落とすところだった。他にダイサギ、アオサギ、セグロセキレイなど。民家裏の木立でモズ♂1擬声。ヒバリ、セグロセキレイ、カワラヒワを織り交ぜたような複雑な囀り?(大塚純子)。

上尾市 上尾運動公園(53397468)

◇5月4日、サンコウチョウ♂、キビタキ♂、コジュケイ、キジノト、アオサギ、コゲラ、シジュウカラ、ツバメなど(嶋田富夫)。

さいたま市北区 秋葉の森総合公園と周辺

◇5月6日、メジロ、ツバメ、シメ、カワラヒワ、モズ、コガモ、カルガモ、ノスリ、オオタカ、カワセミなど。湿地帯側にてウワミズザクラの花が風で舞う中、エナガ成鳥10、幼鳥6、飛び方がまだぎこちなく親鳥に餌を貰っていた。近くの森林内にてキビタキの声が響いていた(村越百合子)。

さいたま市岩槻区高曽根

◇5月8日、タシギ1、農道を歩いていると足元から飛ぶ。コチドリ1。オオヨシキリ2、今季初認。セッカ、さえずり飛翔、ツバメ飛ぶ、ダイサギ1、キジのペア、ヒバリなど(藤原寛治)。

◇5月9日、耕耘中のトラクターの周りにダイサギ、チュウサギ、コサギの群れ。畔にムナグロ2。電柱でハシボソガラス営巢中(鈴木紀雄)。

桶川市若宮

◇5月11日午前6時15分、自宅北側の緑濃い桜の木の上の方で「シーチャン ポンポコリン」とキビタキが30分間囀っていた。午前9時45分、今度は自宅南側ベランダから大きなキビタキの声が聞こえて来た。近くのAさんも来て、一緒に聞く(立岩恒久)。

越谷市 瓦曽根溜井

◇5月15日、しらこぼと橋近くでカイツブリの鳴き声がよく響いていた。今年に入り初めて観察した。今年も浮巢や子育ての様子が見られるかもしれないので楽しみだ(中村達郎)。

所沢市緑町2丁目

◇5月16日午後2時頃、イソヒヨドリ♂1。ファミリーマート裏の芝地で採餌。5月18日午後2時30分には50mほど北東方向の駐車場でも確認した。(石光 章)。

鴻巣市大間一丁目

◇5月19日午前中、カッコウが鳴く。今季初認(榎本秀和)。5月24日午後8時30分頃、空からホトギスの声。今季初認(榎本業摘野)。7月7日午後11時30分頃、遠くからヒクイナの声。聞きながら眠りに落ちる。同12日午前3時ごろ、やはり遠くからヒクイナの声(榎本秀和)。

さいたま市緑区トラスト1号地周辺

◇5月22日、メジロ、コゲラ、シジュウカラ、ホオジロ、ウグイス、ツバメ、カワラヒワ、キジ、エナガ成鳥6、幼鳥5、オナガ、カルガモ、コサギ、アオサギ。オオヨシキリ、今季初認。6月18日、エナガ成鳥5、幼鳥4、オオヨシキリ2、サンコウチョウ1、ホトギス1、メジロ5、コゲラ3、ヤマガラ2、ヒバリ3、オナガ3、コジュケイ1、コチドリ2、シジュウカラ5、ホオジロ4、カワラヒワ3、モズ3、キジ♂3、♀1、ツバメ5、カルガモ6、ウグイス2、セグロセキレイ1、ハクセキレイ1、上空にカワウ2(村越百合子)。

所沢市けやき台1丁目

◇5月22日、カッコウの声、今季初認。5月30日午前10時30分、カッコウ、所沢中央消防署のアンテナ塔にとまり鳴く。オナガ1が接近して来たが無視。オナガはすぐ飛び去った。カッコウは20分後、東方向に飛び去った。(石光 章)。

川越駅西口(53396388)

◇5月23日、タクシー乗り場の屋根にカワラヒワの巣を発見した!人通りも多い人工建造物に珍しい? 親鳥がいる時はいつも「コロコロコロコロ」と声が響いている。途中いない日があったのでやっぱりこの場所は人通りも多くダメだったかな?と思った矢先の5月29日に雛が誕生。6月10日に巣立ちした。本当に人通りも多い場所だが、みんな無事に育っていったほしい(毛利亜寿香)。

飯能市 名栗湖

◇5月26日、イワツバメ20程が橋下で集団

営巣。オオルリ、キビタキの声。キセキレイ、カケスなど(鈴木紀雄)。

狭山市堀兼 堀兼神社

◇5月28日、キビタキ♂1、囀り(鈴木 功)。

蓮田市 黒浜沼

◇6月1日、上沼でオオヨシキリが盛んに囀る。水面にはカルガモ1、カイツブリ成鳥3。上空をツバメ5が飛び交う。7月27日、上沼周辺でモズ成鳥1と若鳥2の家族、キジ♀成鳥1と若鳥2の家族。キジ♀はなかなか逃げず。若鳥を移動させるための時間稼ぎだったようだ。水面には雛4羽を連れたカイツブリ成鳥1。ウグイスの囀り(鈴木紀雄)。

◇6月13日、シジュウカラ成鳥5、幼鳥3、ホオジロ3、ツバメ38、オオヨシキリ10、エナガ6、モズ3、カシラダカ1、トビ1、ツミ1、カイツブリ4、コチドリ2、オナガ1、カワラヒワ4、セッカ2など(村越百合子)。

さいたま市中央区 与野公園

◇6月3日、弁天池でカルガモ親子(成鳥1、幼鳥2)。池の鯉の群れの中にカムルチー(ライギョ)が1匹(大塚純子)。

さいたま市西区指扇 宝来運動公園周辺

◇6月3日、ホオジロ3、キジ♂2♀1、ウグイス、カワラヒワ7、ヒバリ10、モズ3、シジュウカラ5、カルガモ12、ツバメ26、コチドリ4、コサギ、チュウサギ、アオサギ2、ホトギスの声、オオヨシキリ複数など(村越百合子)。

蓮田市 西城沼公園とその周辺

◇6月5日、東沼で1羽で造巣に励んでいたカイツブリの巣が見えなくなった。造巣を諦めたようだ。6月11日、モズの巣立ち雛4羽が「ギチギチ」鳴きながら、一緒に行動していた。6月16日、シジュウカラの巣立ち雛3~4羽が桜の枝間を飛び回っていた。6月27日、ムクドリの子群れ50羽±が芝生で採餌。大半は若鳥だったが、真っ黒な成鳥も数羽混じっていた。他にダイサギ、オナガ、ツバメ、メジロ、ハクセキレイ、カワラヒワなど。7月8日、カワセミが沼に戻って来た。7月18日、オナガ10±が1羽ずつ、移動していった。7月21日、カワラヒワ10±がヒマワリ畑で様子を窺っていた。7月22日、ムクドリの子群れが電線に50±並んだ。久しぶりにツバメ3の飛翔を

見た。7月29日、耕運機の後をムクドリ、ハクセキレイ、キジバトがついて回っていた。ホオジロが横を向いて囀っていた。繁殖後の個体と思われる。他にハシブトガラス、ハシボソガラスが夫々3～5羽と少なくなった。この夏は渡り残ったヒヨドリが目立つ(長嶋宏之)。

越谷市増林

◇6月5日、アマサギ50±、チュウサギ30±(鈴木 功)。

さいたま市西区島根

◇6月11日、市民医療センター1階南の軒下にツバメの巣が2つあり、片方でツバメが育雛中。下方の手すりに巣立ち雛1(大塚純子)。

さいたま市桜区上大久保

◇6月16日、作田排水路第1調整池でカルガモ親子(成鳥1、幼鳥6)。7月4日、湿地で草刈りが行われ、カルガモ親子は池中央の浮島に隠れていたが、作業終了と同時に近所の人々が見守る中、草の間から次の池へ泳ぎ出た。幼鳥は親より少し小さい(大塚純子)。

越生町 鎌北湖

◇6月19日午前9時、沢沿いで複数のヤブサメの声。オオルリの囀りが聞こえるが姿は確認できず。ウグイスの囀り、ホトギスの声、キビタキ♂1、囀る。コサメビタキ、メジロ、ホオジロ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、コゲラなど(藤原寛治)。

川越市 伊佐沼

◇6月19日午後12時頃、コアジサシの群れ30+。ヨシゴイ(下写真)、ヨシ原に複数いた。時々飛んで移動する。オオヨシキリ、バン、ツバメなど(藤原寛治)。



◇7月6日、ヨシ原を出入りするヨシゴイ3、繁殖中のような。水面にカイツブリ5、うち

1羽は雛1を連れている。他にコアジサシ3、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、オオヨシキリ、ツバメ、スズメなど(鈴木紀雄)。

上尾市地頭方～平方領領家

◇6月23日、メジロ9、ツバメ23、モズ4、オナガ16、カワラヒワ5、コジュケイ3、オオヨシキリ2、ハクセキレイ5、セグロセキレイ4、ホオジロ3、コゲラ3、エナガ6、ウグイス、キジ2、シメ、シジュウカラ12など。浅間川にてキセキレイ1。カルガモ親子、成鳥1幼鳥5、成鳥1幼鳥8、カワウ2、カワセミ1。アオサギ、頭に産毛だらうかふさふさして風になびいている様子。田んぼ側の道にコチドリ4。稲の間から姿を見せたイカルチドリ1、土が少し盛り上がった場所で奇妙なダンス。右足をトントントン叩く仕草。次は足を左右に小刻みに2～3度動かす。虫でも探しているのかな?(村越百合子)。

毛呂山町滝ノ入(53397221)

◇6月24日、アカショウビン、コゲラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイスなど(嶋田富夫)。

皆野町 美の山公園

◇6月25日、親鼻駅～萬福寺～皆野町古道登山道入口でメジロ、ツバメ、イワツバメ1など。皆野町古道からお犬くぼ～養山神社～榛名神社でシジュウカラ、ヒヨドリ、オオルリ、キビタキ、サンコウチョウ。アオゲラ、コゲラ、シロハラ、コサメビタキ、アカゲラ、ウグイス、ウソ。美の山～和銅採掘露天掘跡～聖神社～和銅黒谷駅でホオジロ、ホトギス複数、オナガ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、コジュケイ3など(村越百合子)。

上尾市地頭方

◇6月30日、キジ、コジュケイ成鳥2、幼鳥3、ツバメ27、オナガ成鳥1幼鳥7、エナガ成鳥5、幼鳥6、シジュウカラ成鳥7、幼鳥6、ホオジロ、メジロ、ヒバリ8、カワラヒワ2、上空にカワウ2、カルガモ8、ハクセキレイ4、セグロセキレイ成鳥3、幼鳥2など(村越百合子)。

さいたま市大宮区 大宮公園

◇6月30日、カルガモの親子、カイツブリの親子(次ページ左上写真)。シジュウカラ、ツバメなど(嶋田富夫)。



嵐山町 蝶の里公園周辺

◇7月2日、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ツバメ、ホトギス、キビタキ、イカル、モズ、カワセミ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、コマドリなど。ソメイヨシノの木を移動する複数のコゲラ。すると1羽がコゲラと同じ大きさ位のシロスジカミキリムシに鉢合わせ。びっくりして鳴きながら飛び去った(村越百合子)。

加須市 渡良瀬総合グラウンド(54392543)

◇7月2日、カルガモ、カッコウ、トビ、シジュウカラ、ツバメなど(嶋田富夫)。

越谷市中島

◇7月3日、ホンダキツネ1。トビ成鳥1、アオサギ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ。トビはサギのコロニー側の木にとまっていた。雛を狙っていた感じがした(鈴木 功)。

蓮田市笹山

◇7月4日、電線のチョウゲンボウがハクセキレイ3にモビングされて飛び去る。稲がまだ小さい水田にダイサギ5、チュウサギ10、コサギ3、アマサギ2。7月6日、コチドリ3、ハクセキレイなど。7月8日、コチドリ6。7月27日、ハシボソガラスと絡み合いながらゆったりとホバリングするチョウゲンボウ♂1。水田にはチュウサギ、ダイサギ、コサギ、アマサギなど総計約50。コサギは片足を水中でブルブル震わせて採餌(鈴木紀雄)。

白岡市岡泉

◇7月6日、ノスリ1確認。越夏するのか? 他に家族のセグロセキレイ5、コチドリ1など(鈴木紀雄)。

川越市久下戸

◇7月6日、クサシギ1、コチドリ1。8月23日、休耕田でセイタカシギ若鳥1、アオアシシギ1。ムナグロ計16飛翔。イソシギ1。ジンギが

＜野鳥情報の種名掲載について＞

猛禽類や希少種の繁殖期の情報などを除いて、皆さまからの投稿情報はできるだけそのまま記載するようにしています。

しかし、紙面の都合上、普通種といわれる種類の中でもスズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、ハシボソガラス、ハシボソガラス及びガビチョウなどの外来種(コジュケイを除く)については、今月号からしばらくの間、記載を省略します。ただ、これらの野鳥でも興味深い行動や季節を感じさせるものなどは適宜掲載します。

なお、投稿情報は調査部でも共有しています。省略された上記の普通種も調査部では集計の対象です。投稿の際は、今まで通り普通種も含めた投稿をお願いします。

車の真ん前に降りる。チュウジシギだった(鈴木紀雄)。

さいたま市の鴨川

◇7月6日、根切橋〜植田谷堰でコサギ2、カルガモ5(内3羽は親子)、オカヨシガモ♂2(エクリプス羽へ換羽中。訳あって居残り?)、ツバメなど(大塚純子)。

春日部市武里中野

◇7月6日午後4時20分、「ピッピッピッピッピッ…」と断続的に鳴きながら北から南へ直進する鳥影を視認。双眼鏡で見たところチョウゲンボウと思われる(石川敏男)。

川島町 平成の森公園周辺

◇7月7日、カルガモ成鳥8、幼鳥6、アオサギ成鳥1、幼鳥3、ダイサギ12、チュウサギ成鳥10、幼鳥9、コサギ4、アマサギ4、オオヨシキリ、セッカ、カワラヒワ3、モズ2、ヒバリ12、ウグイス、メジロ3、オナガ2、シジュウカラ3、オオタカ、トビ1、セグロセキレイ2、ハクセキレイ2、ツバメ7、キジ2、ホオジロ1など(村越百合子)。

表紙の写真

チドリ目チドリ科タゲリ属ケリ

2021年4月29日、草加市柿木町柿木田んぼで撮影しました。

鈴木 功(草加市)



行事案内

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に氏名・住所・電話番号などを記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。



コチドリ(編集部)

参加費：中学生以下無料、会員100円、一般200円。

持ち物：健康保険証、筆記用具、雨具、飲み物。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。実際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

【フリーと予約制の二通りで開催】

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行するのにあわせて、探鳥会もコロナ以前の形に少しずつ戻っています。基本は予約不要(以下、「フリー」)で、一部の探鳥会は予約制とします。予約方法はホームページからのオンラインでの申し込みを基本とします。

フリー参加探鳥会：「フリー」と記載。

予約不要で、会員に限らず一般の方も参加可能な探鳥会です。都合が良い時に気軽にお越しください。

予約制探鳥会：「要予約」と記載。

貸切バス使用または宿泊を伴う探鳥会や、探鳥地の状況または開催運営上の都合により参加人数を制限せざるを得ない探鳥会については、予約制とします。基本的に会員限定(埼玉会員優先)ですが、非会員の方も参加可能な探鳥会(一般可)もあります。

いずれも探鳥会参加費をいただきます。会員100円、非会員200円、中学生以下は無料。

《開催要項》

1. 予約申込は、当会のホームページからとします。(原則として開催日の4週間前からホームページで受付を開始します。予約制探鳥会では、予約なしでの参加はご遠慮ください)。
2. 政府は2月10日、新型コロナウイルス対策の

マスク着用について、3月13日から屋内外を問わず個人の判断に委ねる方針を決めました。当会では新型コロナウイルス発生以降「コロナ禍の下での探鳥会マニュアル」に基づきマスク着用を探鳥会参加の必須条件としてきましたが、3月13日以降マスクの着用は参加者個人の判断に委ね、マスク着脱については自由とします。

3. 発熱などの症状のある方は参加をご遠慮ください。
4. 新型コロナウイルスの感染が再拡大して政府及び自治体の方針が変更になった場合には、探鳥会の運営方法も再度変更する場合があります。最新情報はホームページで確認してから参加してください。
5. 筆記用具や観察道具(双眼鏡等)は、各自で用意してください。なお、観察道具をお持ちでない方はなくても大丈夫です。



マスク不要の頃の探鳥会です。編集部

長野県・中軽井沢レディース探鳥会

- 期 日：5月13日(土) フリー
集 合：午前8時30分、しなの鉄道中軽井沢駅北口。
交 通：北陸新幹線大宮発6:53(はくたか551号金沢行)→高崎7:18→軽井沢着7:34、又は大宮発7:17(あさま601号長野行)→熊谷7:30→高崎7:44→軽井沢着8:07、軽井沢で「しなの鉄道」に乗換え8:13発→中軽井沢着8:17(※あさま601号は「しなの鉄道」への乗換え時間が少ないので御注意下さい。)
解 散：午後2時頃、現地軽井沢野鳥の森。
担 当：吉原(早)、菱沼(洋)、中川、藤澤、藤田
見どころ：キビタキ、オオルリ、コムクドリ、コルリ、サンショウクイ、クロツグミなど夏鳥の他昨年は冬鳥のジョウビタキ、マヒワも出現! 今年はどうな鳥に出会えるか。約6kmをゆっくり歩きます。
探鳥コース：中軽井沢駅→長倉神社(トイレ)→別荘地→ハルニレテラス(トイレ休憩)→軽井沢野鳥の森
そ の 他：昼食持参。雨天中止※(中止の場合担当は現地に行きません)。
※5/12(金)午後5時発表の長野地方気象台気象情報0267-177で、長野県中部5/13(土)午前中の降水確率が50%を超える場合に「雨天中止」とします。
注 意：女性限定。軽井沢野鳥の森は足元が滑り易いのでハイカットの登山靴をお薦めします。ダイヤ改正の為時刻変更の可能性有。変更の場合ホームページに掲載します。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

- 期 日：5月14日(日) フリー
集 合：午前8時45分、東武伊勢崎線 花崎駅南口階段下。集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園管理事務所前。
交 通：東武伊勢崎線 春日部8:11→久喜8:30→花崎8:37。またはJR宇都宮線

大宮7:53→久喜8:15で東武伊勢崎線乗り換え。

- 解 散：正午ころ、現地で。
共 催：加須はなさき公園管理事務所
担 当：茂木、相原(修)、相原(友)、青山、長嶋、藤田、別井、細田
見どころ：公園内～周辺草原を歩き、水辺の鳥や林の鳥など、初夏の身近な小鳥たちを楽しみます。空の鷹も。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

- 期 日：5月20日(土)～21日(日)
集 合：20日午前9時、長野駅コンコース、新幹線改札口を出て右側。
交 通：新幹線「あさま601号」(東京6:52→大宮7:17→熊谷7:30→高崎7:45→長野8:37着)、または「かがやき503号」(東京7:20→大宮7:45→長野8:42着)など。
解 散：21日16時頃、長野駅前。「あさま626号」(16:24発)に乗車できるように調整。
費 用：16,000円の予定(1泊3食、現地バス代、旅行傷害保険料等)。万一過不足は当日清算。集合地までの往復交通費は各自負担。
定 員：12名(リーダー以外)
申し込み：当会ホームページで4月1日から受付開始。
担 当：菱沼(一)、浅見(徹)、近藤、菱沼(洋)
見どころ：キバシリ、ゴジュウカラなど平地で見られない山の小鳥たちとキビタキ、コルリ、ノジコ、アオジなどのコーラスを楽しみます。
そ の 他：宿泊は男女別(夫婦は同室)。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

- 期 日：5月21日(日) フリー
集 合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
交 通：JR 北浦和駅東口バスターミナルから東武バス1番乗り場「さいたま市立病院行」8:21発で終点下車。
解 散：正午前に集合地で。
後 援：さいたま市立浦和博物館
担 当：須崎、青木、浅見(健)、小林(み)、中橋、島山、三好
見どころ：今年もコチドリは姿を見せてくれるでしょうか。キジやオオタカにも逢いたい

ですね。陽射しが出ると暑くなりますので、温度調節できる服・飲み物持参でご参加ください。

Young探鳥会@渡良瀬遊水地

期 日：5月21日(日) フリー

担 当：廣田

※詳細はHP・SNSに4月中に掲載します。

狭山市・入間川定例探鳥会

期 日：5月28日(日) フリー

集 合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。

交 通：西武新宿線 本川越8:40発、または所沢8:38発に乗車。

解 散：正午ころ、稲荷山公園で。

担 当：石光、金井、小林(ま)、佐藤(久)、瀬尾、山口、山本(眞)

見どころ：この時季の目玉はササゴイ。今年も粹でお洒落な姿に期待しましょう。コチドリ、オオヨシキリなど水辺の夏鳥も出揃う頃です。

群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期 日：6月3日(土) フリー

集 合：午前8時40分、想い出橋駐車場。

交 通：東武線館林行き 新越谷7:23春日部7:38東武動物公園7:43で南栗橋行きに乗り換え 南栗橋7:54着で東武宇都宮行きに乗り換え 板倉東洋大前8:13着。またはJR宇都宮線下り大宮7:27栗橋7:55着 東武日光線に乗り換え 板倉東洋大前8:13着。

解 散：正午ころ、谷中湖北ブロック展望塔付近の藤棚。

担 当：佐野、浅見(徹)、大井、小林(み)、野口、山本(恵)、山本(巧)

見どころ：ヨシ原でコヨシキリやオオセッカを観察します。運がよければコウノトリも。カウコウやホトギス、コアジサシにも期待。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期 日：6月4日(日) フリー

集 合：午前9時、北本自然観察公園・埼玉県自然学習センター玄関前広場。

交 通：JR高崎線 北本駅西口から、「北里大学メディカルセンター行き」バス

8:38発で「自然観察公園前」下車。

解 散：正午前に集合地で。

担 当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋葉、浅見(徹)、大畑、近藤、関口、山本(恵)、吉原(早)

見どころ：葉が茂り、鳥の姿はなかなか見つかりません。しかし、ここでは鳴き声がたっぷり楽しめます。昨年6月の探鳥会前後には、ホトギス、サンコウチョウ、ウグイス、オオムシクイ、オオヨシキリ、キビタキなどの鳴き声を楽しめました。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期 日：6月8日(木)平日 フリー

集 合：午前9時、羽生水郷公園水族館前休憩舎。

交 通：羽生市福祉バスの手子林・三田ヶ谷ルート(ムジナもん号)を利用、東武伊勢崎線羽生駅東口8:04発→南羽生駅8:21発→「キヤッセ羽生・水郷公園」下車、県道を渡り公園へ。

解 散：正午ころに集合地で。

共 催：羽生水郷公園管理事務所

担 当：相原(修)、相原(友)、新井、関口、中川、長嶋、細田、茂木

見どころ：芝生広場ではヒバリが遊び、青葉にひそむ夏鳥やエサを運ぶ親鳥が忙しく飛び回っています。池のアオサギやゴイサギの幼鳥は今年も巣立っているか楽しみです。

注 意：帰りのバスは14:50発です。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期 日：6月18日(日) フリー

集 合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

交 通：JR 北浦和駅東口バスターミナルから東武バス1番乗り場「さいたま市立病院行」8:21発で終点下車。

解 散：正午前に集合地で。

後 援：さいたま市立浦和博物館

担 当：小林(み)、青木、浅見(健)、浅見(徹)、須崎、中橋、島山、三好

見どころ：三室生まれの子たちのかわいい姿。子育てに勤しむ親たちの健気な姿。そ〜っとのぞいてみましょう。

コミミズク救出

鈴木紀雄(さいたま市)



昨年の11月16日午後4時過ぎ、さいたま市内のクワイ田の防鳥網にかかっているコミミズク1羽を発見した。クワイ田の所有者の農家を訪ねて事情を話し、膝上まである長靴をお借りして網の一部をハサミで切断、救出した。あまり飛べず、少々衰弱しているようであったが、眼光はしっかりしているので、隣接する刈田に逃がして現場を後にした。あとは、野生の生命力に望みを託すしかないと考える。

農家の方の話では、カモがクワイを食べに来るとのことで、以前はプロパンガスの爆発による鳥うけを設置していたが、カモが慣れてしまって効果がなくなり、それはやめたとのこと。

今回、私が野鳥の会会員を名乗ってお邪魔したので、最初は防鳥網設置についての苦情を言いに来たと思ったとおっしゃっておられた。しかし、すぐに長靴を提供してくれたりして、非常に協力的な農家さんでほっとした次第。

山階鳥類研究所へ報告しました

山部直喜(三郷市)

先日、山階鳥類研究所に4Eと読める足環をしたユリカモメの報告をした。

報告は5年も前の写真だ。役に立たないかもしれないと思いつつ、インターネットで「山階鳥類研究所 足環 報告」と検索、「野鳥の足環を見つけたらどうしたらいいの?」をクリック、「2、山階鳥類研究所に報告しよう!」にたどり着いた。その報告書式

(*)に上書きし、2/10にメールで情報提供した。

*回収者:山部直喜

*連絡先:(携帯とメールアドレスを記載)

*足環の番号:添付写真をご覧ください。

*回収年月日:2018年1月18日

*回収場所:埼玉県草加市柿木町272-1
「そうか公園」

*種名:ユリカモメ

*性別:不明

*年令:成鳥と思われる

*回収したときの状況:当時は給餌をする人がいた。2023年2月10日現在、飛来していない。



そして2/13にはメール受付済の連絡が届き、2/16には情報提供した4Eの「ユリカモメ標識回収記録報告書」が届いた。この迅速さに驚き、感謝する。文章も実に丁寧で気持ちよい。

その報告書によると、この4Eは2015/1/12に隅田川の桜橋で標識され、今年で10歳以上(標識時に成鳥、少なくとも2歳以上)、今年度は東京都内で確認されているとのこと。さらにこれまでの観察記録を読むと計38回の報告があり、36回が都内。その中の21回は桜橋から2km以内。隣の橋が言問橋。まさに“都”鳥。あとの2回が16.1km離れた「そうか公園」。次々と興味深いことに気が付く。

自分以外にも同じ公園で見ている人がいたこともうれしい。その人だけではない。のべ38人が観察していたユリカモメだったのだ。見えないけれど、誰かとどこかで、確かにつながっているのを感じる。

今、過去の写真の中から足環や首環、フラッグが写った野鳥を探している。



行事報告

7月10日(日) 東京都 浮間公園 Young

参加:16(会員14)名 天気:曇

カルガモ、ホシハジロ、カイツブリ、キジバト、ゴイサギ、ササゴイ、アオサギ、バン、カワセミ、コゲラ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、スズメ(19種)(番外:ドバト) 薄曇りのおかげで暑さや和らぐ中での開催。前回に引き続き、オンライン探鳥会も同時開催。ササゴイの成鳥、幼鳥、バンの親子などじっくり見ることができた。(廣田純平)

7月17日(日) さいたま市 三室地区

参加:11(会員11)名 天気:晴時々曇

カルガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、コチドリ、オオタカ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ(16種)(番外:ドバト) 暑さを避けて、見沼代用水西縁沿いの道をゆく。斜面林の木々と桜並木に覆われたこの道、入った途端に涼しさを感じる。木の力はすごい。遠くの雑木林上空にオオタカの姿。1羽ではない、2羽、いや3羽いる。4羽いる!という声も。トビ以外のタカが渡りでもない時季に複数いる、ということは、家族の群れと考えてよい。見沼代用水にカルガモ6羽。大きさはほとんど変わらないが、親子連れであろう。三室地区のあちこちで、今年も新しい命が生まれ育っている。(小林みどり)

7月23日(土) 越谷市 サギのコロニー観察会

参加:10(会員10)名 天気:晴

ゴイサギ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ(6種) 中川右岸のサギのコロニー(越谷市中島)には、十数年前から毎年3月ごろから9月半ばまでコロニーが形成される。対岸の吉川市吉川の定点で、サギ6種約1000羽を観察した。(橋口長和)

7月23~24日(土~日)

長野県 軽井沢発地~池の平湿原

参加:17(会員17)名 天気:晴

カルガモ、キジバト、アオサギ、ハチクマ、トビ、ノスリ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、ホシガラス、ハシブトガラス、コガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メボソムシクイ、メジロ、コヨシキリ、ゴジュウカラ、ミソサザイ、コムクドリ、カワガラス、クロツグミ、アカハラ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ノビタキ、キビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、ホオジロ、ホオアカ、クロジ(40種)(番外:ドバト、ガビチョウ) 軽井沢発地でバスを降りると、日差しは強いが涼しい風が心地よい。早速、ホオアカが出迎えてくれた。高原のジャズシンガーことコヨシキリ。すっかり囁けなくなったノビタキも見つけられた。予想外のハチクマの出現に一同、どよめいた。湯ノ丸高原では鳥は寂しかったが、高原の花と蝶を満喫した。翌日、早朝に休暇村敷地内の林を巡る。最後に出会った混群の中にジョウビタキの番の姿が。どうやら巣立ち雛たちに給餌中、皆ここでも大感激! 朝食後はメインの池の平湿原へ。駐車場に着くと、ビンズイが梢のてっぺんで高らかに囁いていた。外輪山を高原植物と蝶を楽しみながら歩く。ルリビタキはそこら中で囁いていたが、やっと姿が見られた。(菱沼一充)

7月30~31日(土~日) 長野県 乗鞍~上高地

参加:27(会員27)名 天気:両日とも晴後曇

ライチョウ、オシドリ、マガモ、キジバト、ホトギス、ハリオアマツバメ、アマツバメ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、カケス、ホシガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コガラ、ヒガラ、シジュウカラ、イワツバメ、ウグイス、エナガ、メボソムシクイ、エゾムシクイ、ゴジュウカラ、ミソサザイ、コマドリ、ルリビタキ、コサメビタキ、イワヒバリ、カヤクグリ、キセキレイ、セグロセキレイ、アオジ(32種) 初日の乗鞍では、乗鞍スカイラインから大黒岳斜面を観察。移動中にコマクサ等の高山植物の花々を見ながら、駐車場から500mの所でお目当てのライチョウ出現! しかもヒナを連れた親子で! ライチョウを堪能して宿泊先の上高地へ移動。夕食後、バスターミナル駐車場でナイトウォッチング。雲が多くて綺麗な

星空を見ることができなかつたのが残念! 2日目の早朝は岳沢湿原を探鳥。オオアカゲラやオシドリを見ることができた。朝食後はコマドリを見るため明神に出発。最初は遠くて囀りを聞く程度だったが、明神の近くで姿を見ることができた。今回も昼食は嘉門次小屋のイワナ定食を食べた。コロナ禍で人が少なく、ゆっくりと見ることができた2日間だった。(入山 博)

8月6日(土) 千葉県 三番瀬海浜公園

参加:17(会員17)名 天気:曇

カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ダイゼン、メダイドリ、ミヤコドリ、キアシシギ、ソリハシシギ、イソシギ、トウネン、ハマシギ、ユリカモメ、ウミネコ、オオセグロカモメ、コアジサシ、ミサゴ、モズ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ(23種)(番外:ドバト) 開始前は干潟にいた鳥たちも、遠くの杭の上に移動してしまつたが、ソリハシシギ、キアシシギ、トウネンがまだ残っていてくれた。ソリハシシギの足の速さに、皆さん感心していた。お目当てのミヤコドリは、遙か彼方の貝殻島の上で休んでいる。いつもの堤防の上はカワウの大群に占拠されていた。比較的、近くに夏羽のカンムリカイツブリ。こんな、きれいな夏羽は滅多に見られない。暑さが心配であったが、日照りもなく、そよ風が心地良かった。(菱沼一充)

8月7日(日) 北本市 石戸宿

リーダーの都合により中止。(吉原俊雄)

8月21日(日) さいたま市 三室地区

参加:9(会員9)名 天気:曇

カルガモ、キジバト、サシバ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、コムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ(18種)(番外:ドバト) コロナと連日の猛暑のせい、参加申込はリーダー以外たったの5名。さらに、朝からの雨で1名から欠席の連絡。でも、「涼しいから絶好の鳥見日和」と小雨決行! 出発時にはほぼ雨も止んで、当初予定の「用水沿い木陰道コース」を「芝川～農耕地～斜面林コース」に変更。これが大正解! 芝川にカワセミ幼鳥、農耕地電線にコム

クドリ、斜面林近くの民家TVアンテナにサシバ幼鳥など、じっくり観察。(浅見 徹)

9月18日(日) さいたま市 三室地区

雨のため中止。(青木正俊)

**9月18～19日(日～月休)
長野県 白樺峠～上高地**

最少催行人員に達せず中止。(入山 博)

9月23日(金祝) 松伏町 松伏記念公園

天候不良により中止。(山部直喜)

9月25日(日) 狭山市 入間川

参加:24(会員24)名 天気:曇後晴

カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ヒメアマツバメ、イソシギ、カワセミ、モズ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ムクドリ、イソヒヨドリ、エゾビタキ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ(26種)(番外:ドバト、ガビチョウ) 前日までの雨で入間川の水量が多い。水辺の鳥たちは少ないかなと思ったが、サギ3種、イソシギ、カワセミがいつものように姿を見せてくれた。イソヒヨドリもお気に入りの場所で確認。最後は稲荷山公園で3～4羽のエゾビタキがみんなを楽しませてくれた。(長谷部謙二)

10月2日(日) 北本市 石戸宿

参加:30(会員30)名 天気:快晴

カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、アオサギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、ノスリ、コゲラ、アカゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、スズメ(22種)(番外:ドバト、ガビチョウ) 埼玉県自然学習センター前で上空青空を舞うノスリ。高台の広場で椋に群れるエナガ、コゲラ、シジュウカラ、メジロの混群。河川敷で上空を舞うハイタカ。ミサゴ、トビも飛ぶ。高尾の池でコガモ。晴天のため多くのタカが見られ、渡り途中の鳥も多数見られ感激した。また、朝の下見で見られたというクロコマチョウ(蝶)が同じ場所で見られたのにも感激した。(吉原俊雄)



連絡帳

●川越市長から返信

前号でお知らせした昨年10月27日(木)付け郵便で川越市長に提出した「伊佐沼花火大会に関する要望書」につき、本年2月15日付け川合善明川越市長から当会山部直喜宛て回答書が届きました。要旨は、次の通りです。「伊佐沼公園を会場とした花火大会には、平成2年度の開催以来、(中略)多くの皆様のご協力により、成り立ってまいりました。しかしながら、コロナ禍などの社会情勢の変化により、花火大会による野鳥等の生態系保護への影響をはじめ、会場の狭小問題(中略)など、諸課題があります。主催者である小江戸川越観光事業実行委員会と共に、懸案事項の解決に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますようよろしくお願いいたします。」

●さいたま市教育委員会に協力

本年1月末、同委員会が平成30年に発行した『自然観察ハンドブック<中学校>』を再発行するにつき、野鳥写真を新しくしたいとのことで提供依頼がありました。

当会に金銭的利益はありませんが、市内の中学生の皆さんにより良い状態で野鳥たちのことを伝える良い機会と考え、指定された24種の野鳥写真(海老原美夫撮影)データを、2月16日(木)までに、同委員会に手渡しました。

●会員数は

3月1日現在1,459人です。

活動報告

1月24日(火)-27日(金)メール交換による役員会を開催、「小林みどり副代表を留任、石塚敬二郎幹事と佐野和宏幹事を新任として、3名を令和5年度県鳥獣保護管理員として推薦する」との議案を承認、27日に推薦書を県担当者に送付した。

2月11日(土)オンライン普及部会を開催、5-6月の探鳥会計画などについて協議した。

2月14日(火)-16日(木)長野誠治普及部長から提案された「令和5年5-6月探鳥会計画(案)」を第1号議案、小林みどり調査部長から提出された「当会の野鳥データベースにつき、東北大学理学部から利用申し込みがあり、役員会としての承認を求める」との提案を第2号議案としてメール交換による役員会を開催、両議案は承認された。

2月21日(火)-22日(水)、メール交換による役員会を開催。長野誠治普及部長提案の議案「令和5年5-6月探鳥会計画(案)の一部変更」が承認された。

編集後記

初めまして! 昨年末から編集部の一員にさせてもらいました。より良い会報になるように、これから野鳥に興味を持つ方が増えるように、お手伝いをしていけたらと思っています。皆さま、どうぞよろしくお願いいたします! (柴崎)

1-2月号から「あれっ、紙面が変わった?」「行事案内欄が読みやすくなった!」「文字の色が濃くて分かりやすい」等々の声が聞こえてきています。原稿作成専用アプリを使いこなせる編集部員加入のおかげです。(山部)

しらかばと 2023年3-4月合併号(第457号)

発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

郵便振替 00190-3-121130 URL <https://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org

住所変更などの連絡は gyomu@wbsj.org またはTEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635
〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。